

# しいのみぐみ

# しいのみ・たんぽぽ・みずぐみだより 1月

# みずぐみ

2020.1.29 円町まがね隣保園



新しい年が始まり、久しぶりの登園に「おーらんきー!おはよう!」と挨拶する子ども、派手な子どももいました。友だちや保育者に冬休み中だったことを嬉しそうに話す子どももいます。家で充実した冬休みを過ごしていたようです。季節や気温の変化に目を向けて、風邪や感染症の予防に努め、戸外でも遊び元気に過ごしたいと思います。

新しい年が明け、新しいお友だちを迎えにぎやかなスタートになりました。少し寒さも感じられるようになってきましたが、1日に1回は屋外に出て、クラスで、又他のクラスの子もたちと散歩や園庭でおそんでいます。路地や公園ではみんな散歩カーから降りて探検開始です。大きい月齢の子どもたちはどこに何があるのかをよく覚えていて置き物一つ一つに「おはよー!」と大きな声でおいさつします。又、少し失を楽しく「ワンワン!」「バス!」と保育者の手を引いて足速に進む姿もあります。小さな段差で「3、2、1、ジャンプ!」と跳んだり、電柱の陰から「バア!!」と出て友だちを驚かせたり、楽しいことを見つけてはくり返しおそんでいます。小さい月齢の子どもたちも立ち乗りのバギーでの散歩をするようになり、今まで座っていたは見えなかつた景色に目をキラキラ輝かせています。友だちが拾って持ってきたきれいな葉、はや松ぼっくり、ねこじらしの葉、はを受け取り触ってみます。すると不思議そうな表情をしたり、彦頁をしかめたり、感傷を感じているようです。しいの実ぐみでの生活もあと2ヶ月となりましたが、この時期だからこそ大切にしたいこと、経験したいことを取り入れて楽しんでいきたいと思ひます。

## たんぽぽぐみ

今月もたくさん散歩に出かけることが出来ました。保育者や友だちと手をしっかり握って、園の周辺をゆっくり歩いたり、少し広い公園では、トンネルや順番に遊具に乗って楽しめます。子どもたちにとって周りにはあるもの全てが宝物で、石を大事そうに持ち帰ったり、葉っぱを持って帰るのに木の枝に刺して持って帰っています。御旅所ではたいよう組さんのお兄さん、お姉さんと、だるま寺ではみず組のお兄さん、お姉さんと一緒に遊べます。大きい組の子どもたちとの遊びの中で、一緒にぶっこ遊びに参加しようとしています。大きい段差を乗り越えているのを見て、「自分もやってみたい」と挑戦する姿が見られました。

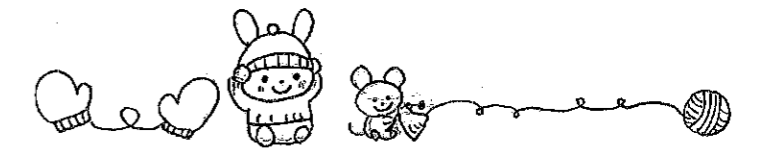
**描く** 描画では、絵の具や水性ペン、そしてクレパスなど様々な画材を使って自由に描いています。今月は大きな模造紙に水性ペンを使って描きました。いつも画用紙の大きさで描いていますが、模造紙は机全体の大きさで広く、子どもたちもあちらこちらと動いて描いていました。時には友だちの持っている色のペンで描きたいということ取り合いになってしまうこともありましたが、保育者の声かけで上手にどうぞをする子どもも増えてきています。子どもの中には、丸を描くようになったり、ギザギザやぐるぐる線を描いたり塗りつぶして描いている姿もあり、成長を感じました。

## 自分の思いを出している子どもたち

子どもの中には、「これがいい」「これじゃないと嫌だ」と自分なりの強い思いを持っている子どももいます。それは自分の意思を持ち、はっきりと自己主張をするようになってきたのです。子どもが自分の思いを出してくると、大人もつい感情的になって強く言いがちです。そのような時こそ成長したなあと思ひ笑顔になるゆとりがあるといいなあと思ひます。そしてスキンシップをしたり、落ちついてからゆっくりと話したりすることも大事です。子どもが自分で気持ちを切りかえられた時は一緒に喜び合えるといいですね。

## こまづくり

保育室にあるおもちゃのこまも大好きで、普段から上手に回して遊んでいた子どもたちです。「自分のこま作ってみようか!」と声をかけると大喜びです。小さく切ったフェルトをボンドでこまにつけていきます。「どの色にしようかな?」「ここに付ける!」「いっぱい付けられた!」と丁寧に1つずつフェルトを選んでつける子どももいます。「いっぱい!」とこまにボンドを塗り広げてフェルトを散りばめる子どももいます。世界に1つだけのオリジナルのこまが完成し、早く回りたい気持ちで「いっぱいの子もたちです。乾いてから実際に回して遊んでみると、「黄色と緑や!」「赤も見える!」と回して遊ぶことで貼ったフェルトの色がっつがって見えてとても不思議そうでした。

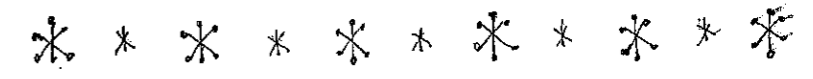
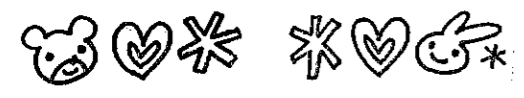


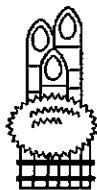
**ほめることについて** 「大きい(小さくない)自分」を意識し、色々なことに興味を持ってやってみようと思ひますが「できるーできない」を気にし始めるとまどったり、尻込みする姿もあります。「本当はやってみたい」気持ちがあることを大切に、とまどいながらもやってみようと思ひが前向きに動くようにあせらずゆったりと温かいまはざしで見守り、励ましてあげよう。

**おねがい** 朝おやつ用、昼食用、おやつ用と現在3枚手拭きタオルを用意してもらっていますが徐々に手を洗って用意してもらっているフェイスタオルで拭くようにしたいと思ひています。2月から昼食後のみ、手拭きタオルを使用し、おやつ後は手を洗いますので、手拭きタオルを1枚用意してください。よろしくお願ひします。



子どもは生活の全部が遊びです。そして大人のことをよく見ていて同じようにする姿が出てきています。大人を見て真似することから「自分でしたい!」の気持ちも、と膨らんでいきます。朝登園した時にロッカーに服を補充する際、「ズボンいれてー、パンツもいれてー」と言いながらすると子どもはじっと見ていますし、「パンツボールここに入れてくれる?」と言うと喜んでお手伝いしようとするでしょう。子どもが目で見え、見通しが持てるよう言葉がけして生活していきたいものです。





## かぜ・そらぐみ おたより（1月号）

子どもたちの元気な声や挨拶と共に、新しい年がスタートしました。年明けには久しぶりの登園にソワソワしながらもお休みのお話に花が咲き、友だちとの関わりを楽しんでいる子どもの姿がありました。今月は風揚げやこま回し、福笑いなど、正月あそびを楽しんでいます。

今年度も残り少しですが、一日一日を元気に過ごしていきたいと思ひます。また、新しい一年が子どもたちにとって、おうちの方々にとって、笑顔がたくさん年になりますようお祈り申し上げます。



### かぜぐみ

早いもので、2020年の始めの一ヶ月が終わろうとしています。

久しぶりに登園した子どもたちは笑顔で、友だちに会えることや、一緒にあそべるのが嬉しそうです。

休みの間に経験したで新年の挨拶も、顔を合わすと自然としています。

#### ☆お正月あそび☆

さて、1月といえば、お正月あそびです。正月だからするというわけではありませんが、伝承あそびのひとつとして子どもたちに伝えたく、あえてこの時期にコマ、凧作りをしてあそびます。

コマは、これまでも経験しているので、よく知っています。

昨年は上手に回せなかった子どもも、今年は上手に回して楽しんでいます。

絵の具の三原色プラス白を使い、それぞれ個人のコマに模様をつけます。

色が混ざり合うと、「ウワツ、いろがかわったで」「〇〇いろになったで」と目を輝かせ、数人ずつで順番でします。まだしていない子どもたちは、興味深々で模様をつけている友だちの様子を見て楽しみにしています。

模様をつけ終わった子どもは、乾くのを待っている間「まだかなあ?」「せんせい、もうできた?」「あそべる?」と何度も聞いて待ち遠しそうです。

遊んでいる間に、絵の具が取れてしまわないように、ポンドでコーティングします。そのため、更にお楽しみになりました。

その間も、子どもたちのあそびたい気持ちは大きくなっていきます。ポンドも乾き、いざ、子どもたちのもとにコマを持って行くと「やった～、コマやで」と大喜び、その場で、回し始めます。床で回すだけでなく、机を使って、コマが回る様子を、友だちと見せ合いっこしています。今では、たいよう組の影響もあり、一緒になって、楽しんでいます。

凧は、レジ袋にマジックで絵を描いて、麻紐をつけた簡単なものです。

出来上がると、みんなでその凧を持って鹿垣公園に凧あげに行きます。

普段、あまり走ってあそばない子どもも、友だちと一緒に走っての凧あげです。

コツを掴み、上手にレジ袋の中に空気を入れて走っている子どもや、持って走って、雰囲気を楽しんでいる子どもたちです。あそぶ時間は短かったのですが、自分作ったものであそべて、満足そうに保育園へ帰ってきました。やはり、楽しいことをした時の子どもたちの笑顔は格別です。



#### ☆クッキング☆

2回目のクッキングをしました。

今では、お店に行けば売っているすりごまを、すり鉢とすりこぎを使ってすりごまを作ります。ゴマをする時の感触を経験し、楽しんでほしいという願いから、ブロッコリーのごま酢和えにしました。

すり鉢とすりこぎを見ると、「これしってる」「こうやってするやつやで」と手ぶりで話す子どもたちには、よく知っているなあと保育者は驚きです。

3つのグループに分かれて、クッキングの開始です。ブロッコリー、えのきを裂いて、湯がいている間に、ごますりです。各テーブルにすり鉢とすりこぎを準備します。順番にしようとして声をかけると、それぞれのテーブルで工夫をして、自然に交代してごますりをする姿がありました。ごますりを始めると「プチプチする」「いいにおいすんで」と感触を楽しみます。ごまがすれると湯がいたブロッコリーとえのき、調味料を入れて、子どもたちが混ぜて、完成です。

給食時間まであそんでいる間も「はやくたべたいな」と話す子どもたちです。

今の時代、便利になり、お金を出せば、たいいものは何でも手に入るようになりました。しかし、ひと手間をかけて、昔ながらの手法を子どもたちに伝えていくのも大切ではないでしょうか。また実際に伝承あそびのおもしろさと手先や身体を使うことの大切さを再確認し、親子で共に楽しむことも生活に取り入れる心のゆとりと楽しみ方を大切にしてみませんか?

### そらぐみ

#### ★生活の流れ

日々の生活習慣の流れは身に付いてきている子どもたちですが、時々“先生が～してねっていわはったし”と保育者に言っている姿があります。

例えば、戸外から帰ってきたら、手洗い、うがいをすること、またリュックサックに着替えを入れるなど、なぜするのかということが伝わっていないのかと感じる場面でもあります。子どもたちともう一度、話し合いをすることで、一つひとつの流れを確認しています。誰かに言われるからするのは身に付いていかないので、自分で考えて動いてしていくことを目標に応用を効かしていきたいと思ひます。

#### ★園外に行ってきました!

鉄道博物館へ行きました。当日を指折り数えて待つ子どもたちです。

お家の方と行ったことがある子どもたちも多く、ワクワクの止まらない姿がありました。館内へ着くと、自分の興味のある所へ向かいます。電車の名前に詳しい友だちは一つひとつ丁寧に伝えています。中でも車掌体験コーナーは人気で操縦している気分になります。外へ出ると、蒸気機関車の迫力に驚きです。空に広がる煙と大きな汽笛の音の方向に思わず見入っています。そして、姿が見えなくなるまで、ずっと手を振り見送っていました。



楽しみのお弁当の時間は2階にある食堂の窓側に座っていただきます。電車が何台も行き来し、絶景のポイントです。通る度に発見があり、子どもたちの話も盛り上がっていました。

この日から鉄道博物館への熱は冷めやらず、パンフレットを見ては話が弾み、また、電車の絵を描くと絵に表現する子どもたちです。

それぞれが感じたこと、思ったことを伝え合い、また、共通のイメージを楽しんでいました。このような経験をあそびにも広がり、深まっていけるよう見守っていきたく思ひます。

#### ※お願い

- ・早寝・早起きの習慣を心掛けましょう。
- ・名前の分からない衣服があります。持ち物にはすべて名前を書いてください。

# たいようぐみだより

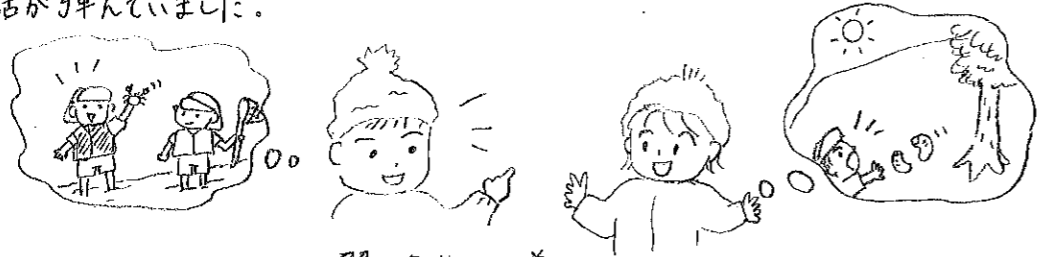
～お泊まり保育号～  
2020年1月31日(金)

今年は暖冬で雪が降らず残念でしたが「みんなと一緒に泊まる」という事をして楽しみにしていました。あと〇回寝たら行く!と指折り数えていた子どもたちです。

## 花背交流の森へ

29日(水)朝、みんなでおはようのお集まりをして、お当番の子どもが「みんなが元気に過ごせますように」とお祈りをします。編んだ帽子、スキーウェア、スノーブーツを履いて出かける準備を着々と進めます。そしてかぜ、そら組のお友だちに行、てきま〜すと元気に声を掛け、園を出ます。市バスの中では「(ウェアを着ていると)暑い…」と脱ぎたそうでしたが京都バスに乗り、花背に近づいてくると暖かさもちょうど良いぐらいです。そして交流の森に到着し、バスを降りると京都市内とは違い、とても寒かったので、みんな驚きます。

翠峰荘を目指して歩いていると川が見えてきて「あ、ここ夏のお泊まりの時に川の中に入ったなあ!」と言ったり、「そう言えばここに幼虫いたなあ」と思ったり、友だちや保育者と会話が弾んでいました。



翠峰荘到着

2日間お世話になる翠峰荘の方にあいさつをしてから2階へ上がります。広々とした部屋を見ると気分も盛り上がり、思わず走ったり、側転したり、嬉しい気持ちも表現します。(本当は走ってはいけません)自分の荷物をまとめて置き、昼食を食べるために1階の食堂へ行きます。夏の時と同様、きつねうどんを食べると「おいしいわ〜」と味わって食べています。お腹もふくれたので、外へ遊びに行こうと出してみると小雨が降っています。森愛館(夕目的屋内施設)でこま回しや鬼ごっこ、風船遊びや大縄で遊びます。雨が止んできたのを見て戸外でも遊びました。夏のお泊まり保育の時によく遊んでいた小高い丘のてっぺんに建っている秘密基地のような小屋に登りたい!と登っていきます。小窓から下にいる保育者に「お〜い!」と声を掛け手を振ります。遊んでいるうちに「何かかいぞくせんみたいやなあ」とイメージがふくらみ、友だちと楽しんでいきます。すると下にいた子どもたちから「ポムちゃんからの何かある!」と見つけた知らせが...!!小屋で遊んでいた子どもたちも急いで降りてきて、かけ寄ります。「見せて見せて」「部屋に入って見よ!」と翠峰荘へかけ足で戻ります。



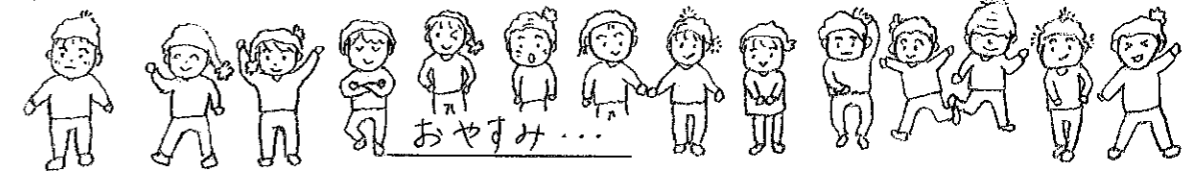
中身は何だろう?と包んであった袋を空けると、また袋に包まれています。また袋?!と動きが止まる子どもたちです。ようやく全て空けると中から葉っぱ型のキーホルダーが出てきて虫採りアミを持ったポムちゃんが描かれています。「めっちゃかわいい〜♡」「ポムちゃんからのプレゼントや!」と夏のお泊まり保育では見つけられなかったのでも嬉しそうです。そして後から見つけた手紙には「もうひとつのプレゼントも見つけてね」と書いてあります。もう一つ?どういうこと??と考えた子どもたちが「わかった!この(葉っぱの)プレゼントは虫アミ持ってるし夏のやっや!」



キャンプファイヤー



だから冬のお泊まりでも一つプレゼントがあるんと違う?!と推理し、もう一つのプレゼントを巡り、翠峰荘のあちこちを探しますが見つかりませんでした。今回は無事に見つかるかなあと思う子どもたちです。  
お風呂に入り、夕食を食べた後の「おたのしみ」に、雨も降ってなかったため夏にできなかったキャンプファイヤーをする事ができました。火についてのお話を聞いたあと、組んである薪に火をつけるとボウ...と火がつき、徐々に燃え広がります。パチパチと音を立て、火の粉が舞い上がると「すごい花火みたい」「火の赤ちゃんいっぱい飛んでる」と燃え上がる炎を見上げます。もっと勢いよく燃える為みんな「ソーラン節」を踊ろうという事になり、炎を見ながら踊ります。ますまず大きく燃えてくると、少し後ずさっています。時間が経つと火の勢いも落ち着き、みんなでクイズやジェンガ(踊り)少年少女冒険隊の踊りを楽しみます。踊り終えた頃には薪も燃えきり、崩れてきます。キャンプファイヤーでは保育者が遊びを提供するだけでなく、「もえろよもえろの歌にあわせて火の周りを歩いて歌いたい!」「僕は踊りを考えたしみんなでやりたい」と子どもたちも自分で楽しい事を考え、みんなでキャンプファイヤーを楽しめたなあと感じるひとときでした。



部屋に戻り、パジャマに着替えても、名残り惜しいのか、窓からキャンプファイヤーをしていた場所を度々見て「まだ火ちょっと燃えてるぞ」「だいぶ小さくなったな」と見ている子どももいます。友だちと協力して布団を敷き、寝る準備を自分たちでします。シーツを敷くのも今回2回目なので以前の事を覚えており、スムーズに敷いています。友だちと一緒に布団に入ると嬉しくて大騒ぎでしたが、絵本を見始めると吸い込まれるようにお話の世界に入ります。絵本が終わり、部屋の電気を消すと「まだ眠たくない」「眠くないから朝まで起きてもいい?」と話しながら、しばらくすると1人、2人...と眠りにつき始め、10時過ぎには全員が眠りについていました。



2日目

起床時間は7時でしたが、6時前から起きたし、友だちとヒソヒソと話し始めています。目覚めた子どもが増え、6時半過ぎにはほぼ全員が起きていたので、起床時間を予定より早め、6時45分には起きました。友だちと一緒に布団を畳み、顔を洗います。着替えて朝食まで(時間ほどあったので、1階の木育コーナー(木のおもちゃがたくさん設置されています。)に置いてあるおもちゃで遊んで過ごしました。遊んでいるとお腹が空いてきて「早く朝ごはん食べたいな」と言い始めます。朝食の時間になり、友だちと話しながら食べ始めます。モリモリ食べてごはんをおかわりする子どもも、「いつもはパン食べてるから…」とあまり進まない子どももいました。

食べ終わると遊べる時間が少しあったので、昨日見つけられなかったポムちゃんからのもう一つのプレゼントを捜しに行きたい!と言っていたので、ポムちゃんがいるかもしれない?! 翠峰荘の奥にある山へ散歩がてら行きます。ポムちゃんに会えるかもしれない...と思い歩いていくと、小屋を発見、「ここ何やろ?」「ポムちゃんのおうちかな?」と立ち止まり、中を覗きます。地面に大きな穴が空いているのを見つけると「ここでお風呂に入ってるんや?」「違うど上にヒモがあるからここで料理を作るんやぞ」と聞くと「ごはんとか?」「ヒモで吊るしてイノシシとか焼く...わからんけど」と想像がどんどん膨らみます。「でもポムちゃんはこのボロボロの家に住んでへんと思う」「木(薪が積んでありました)があるから自分で直さるんやって!」等々友だちや保育者と真剣な表情で話します。

家の中をさらに詳しく調べていると、天井からポトリと赤い袋が落ちてきました。見つけた子どもが「あれ?これ何やろ」と不思議そうにします。「もしかしてポムちゃんからのプレゼント違う?」と誰かが言うので、早く中身を見たくて急いで包みを取ります。すると手紙とプレゼントが出てきて「やっぱり!」と大興奮です。1人ずつ見つけたプレゼントを貰い、「これで2日目や」「またリュックにつけよ〜と」と大喜びです。プレゼントがあったと言う事は「やっぱりポムちゃんの家やたんや...」と思う子どもたちです。落とさないよう大切に持ち帰り、1つ目のプレゼントと同じようにリュックサックに糸巻んでいます。ようやく2つ揃った素敵なプレゼントに満足そうです。



キャンプファイヤー、ポムちゃんからのプレゼントと楽しい事が色々ありました。友だちと一緒に同じ経験をして過ごせた事が、一番の良い思い出です。お休みのお友だちがいて残念ながら14人全員では行けませんでしたが、ポムちゃんからのプレゼントを見つける度に「持って帰って渡してあげよう」と話していました。今回は天候に恵まれず、小雨が多く、雪も見ることができませんでしたが、子どもたちはとても楽しんでいました。早くから荷物の準備等、お家の方も忙しい中、ご協力ありがとうございました。

